

会長就任に当たって

JNSA 会長
佐々木 良一



このたび、JNSAの会長を務めさせていただくことになった東京電機大学の佐々木です。最初にこの話があったとき、「私のような若輩がとて会長など」ということでお断りしようかと一瞬思いました。

前会長の石田先生などに比べると、見識も、実績も大きく見劣りし、まさに「若輩」です。しかし、考えてみると実年齢だけは、近く還暦ということで、「若輩」ということでお断りするには年をとりすぎていました。

また、情報セキュリティに対する私の思い入れもありました。私が、セキュリティの研究にかかわったのは日立の研究所の課長になった1984年のことです。当時、日本セキュリティ・マネジメント学会もまだ発足していませんでしたし、セキュリティの関係者はどう多めに見ても100人はいなかったと思います。そのような中で、セキュリティの研究および研究管理を行うと共に、いろいろな製品化や、セキュリティシステムの実現に悪戦苦闘しながら関与してきました。それが今では、JNSAの参加企業だけで100社を超えています。このように大きく成長したセキュリティ業界のためにお役に立てるならそれは本望であるということでお引き受けしました。

JNSAは、2001年5月に内閣府認証の特定非営利活動法人(NPO法人)として活動を始めて丸6年、任意団体から数えると丸7年たちました。この間、情報セキュリティを取り巻く環境や意識は大きく変化しています。私は、最近の大きな動向は4つあると思います。

- (1) 企業や家庭でのセキュリティの問題だけではなく、インターネットゲームや、SNS (Social Networking Service) などのバーチャルな世界でのセキュリティの問題も重要になりつつある。
- (2) 情報システムに関し、安全・安心を確保したいという要求が高まり、狭い意味でのセキュリティの問題だけでなく、プライバシーの問題や、システムの信頼性・安全性の問題も含めて扱って行こうと言う動きが強まってきている。
- (3) かつては、組織の自由な意思によってセキュリティ対策が実施できたが、個人情報保護法や金融商品取引法などの法律や、コンプライアンスのような社会的規範を意識しながらセキュリティ対策を実施していくことが不可欠になってきた。
- (4) それに伴い、かつては(a)セキュリティ被害の発生の防止中心だったものが、(b)応急対応も含むものとなり、最近では、(c)原因の究明・証拠性の確保・裁判への対応なども含めて実施す

ることが要求されるようになってきている。いわゆる、デジタル・フォレンジックが重要な課題になりつつある。

私自身は、このような状況さらには5年後の状況に対応した研究を進めています。ビジネスも将来の動きに的確に対応することなしにはうまくいかないのではないのでしょうか。

JNSAの活動や成果は、国際的にも国内的にも、ますます重要性を増してきています。私も微力ながら、JNSAならびにセキュリティ業界の発展に尽力したいと考えておりますので、今後ともJNSAの活動に積極的に参加いただきますようお願い申し上げます。